

さいたま

第2回市P協研究大会を開催 ～市内小中学校等のPTA会長ら77名が参加～

「区連情報交換」をテーマにした第一分科会については、各区連の出席者全員が順番に、レジメやパンフレットを手にして、各区連の組織構成や実際に実施されている事業内容を説明した。

「区連情報交換」を行つては積極的に「夏休み作品展」や「クリーン大作戦」といった独自の大型事業を行つており、参加者は興味深い様子で他の区連の発表内容に耳を傾けていた。また、多くの区連において、会長・校長会を開催して、PTA側と学校側の相互交流を深めている実情が明らかになった。

第一分科会報告
活発化する各区連の事業


第2回 さいたま市PTA協議会 研究大会

十一月十二日、シーノ大宮で第二回研究大会が開催された。平成十九年一月に第一回が開催されて以来、約三年ぶりの開催となる今回の大会の目的は、「家庭教育力の向上」について学ぶとともに、各区連の活動について情報交換を行い、活動の活性化を図るもの。午前中の東京聖栄大学岡田弘教授による講演会に続き、午後は二つの分科会に分かれて、活発に意見が交わされた。

研究大会の冒頭で、市PTAの渡辺紀子会長が、「PTAが家庭教育力を考え、学校や地域、家庭の架け橋となつて子どもたちを育む必要がある」と挨拶。続いて、来賓の桐淵博教育長は、「さいたま市の子どもたちが『全国の学力テストや体力テストで優れた成績を収めている』と高く評価した後、「子どもには悩みがある。子育てに悩んでいる親も多いが、世の中のおかしな動きに惑わされないように頑張っていただきたい」と、保護者

にエールを送った。引き続き行われた講演会の講師岡田弘先生は、教育委員会の「人間関係プログラム」作成委員会で委員長を務めたカウンセリング心理学の専門家。演題は「ズバリ、『家庭教育について』」。講演は、参加者を二人組のペアにして、所々でお互いの意見を語らせ合う参加型で行われた。先生は、

活動のなかで目立つたのは、スポーツや趣味を通しての交流や、消防職員を招いた救命活動体験といった参加型活動。多種多彩な活動のなかで目立つたのは、スポーツや趣味を通しての交流や、消防職員を招いた救命活動体験といった参加型活動。多種多彩な活

動に参加しているPTAの取り組みに対する真剣な様子が、話し合いから伝わってきた。人気のないイベントに集客するのが、毎年のような視点からすると否定はできないが、親としてどうあるべきか」という視点はできないが、親としてどうあるべきか」という視点から第二分科会では「家庭教育について」をテーマとした意見交換が活発に行われた。

活動のなかで目立つたのは、スポーツや趣味を通しての交流や、消防職員を招いた救命活動体験といった参加型活動。多種多彩な活



挨拶する渡辺会長



講師 岡田弘教授

各区連の発表後、「会長・校長会のあり方」や「情報交換会や会議内容のあり方」について質疑応答や話し合いの時間が持たれた。その中で、創意工夫を重ねて有意義なものとしている区連がある一方で、開催されないものとしている区連がある一方で、開催された。その中で、創意工夫を重ねて有意義なものとしている区連がある一方で、開催されないものとしている区連がある一方で、開催された。その中で、創意工夫を重ねて有意義なものとしている区連がある一方で、開催されないものとしている区連がある一方で、開催された。



来賓の桐淵教育長

- 人間としての多様性を認めることが、人格の完成につながっていく。塾やスポーツ少年団、地域ば
- かりに頼つていてはダメだ。保護者は、それをどう使つていくか考えないとい

うに思ふ。そこで教師を育てる必要がある。それが保護者を、そして教師を育てるこ

- 子どもたちにとって最高のモデルは保護者と教師。それぞれがどれだけ子どもには保護者と教師が一体となって取り組むことが必要。
- 子どもをどのように育てるのか家庭が方針を作り、教師に具体的に伝える。それが保護者を、

とにかくに頼つていてはダメだ。保護者は、それをどう使つていくか考えないとい

- 子どもたちにとって最高のモデルは保護者と教師。それぞれがどれだけ子どもには保護者と教師が一体となって取り組むことが必要。
- 子どもが悪いことをしたら必ず行動を叱る。人格を傷つけるしかり方はいけない。「おまえが好きだから」と思いながら、しつかりと叱ることが大切だ。

とにかくに頼つていてはダメだ。保護者は、それをどう使つていくか考えないとい

うに思ふ。そこで教師を育てる必要がある。それが保護者を、そして教師を育てるこ

第二分科会報告
多種多彩な家庭教育の取り組み

親子関係と家庭教育力



市教育委員会お勧めの「ミュニケーション習得スキルとは?」

市教育委員会では親が積極的に
を田舎の家庭生活の中で活用する
ために、昨年度策定されたプログ
ラムだ。

子どもの心をより豊かにするため、
めるスキル（技術）の習得を目指します。

■親子のコミュニケーションを深める秘訣は?

「たかが寝方と言つなれ」

皆さんは、さいたま市教育委員会が実施している「親子支援プログラム」をご存知でしょうか?

市教育委員会では新規積極的に
子どもとかかわり、家庭における
親子のふれあいやコミュニケーション
を増やすことが重要と考え、
PTA活動などを通して、その普
及に取り組んでいます。

セレジ市教育委員会を訪問し、担当の主任指導主事兼係長・星野貞邦氏から「新子育て支援プログラム」についての説明と話を伺った。

態度、感情のコントロールの仕方など、疑似体験を通して楽しく学ぶ授業を教育過程に取り入れ、日頃の授業や行事などをはじめとする直接体験の場で定着を図つてみると、「人間関係プログラム」は、さいたま市独自の取り組みであり、全国からも注目されているとのこと。「親子支援プログラム」は、こうして子どもたちが学校で学んだ人間関係を構築するスキル（技術）

全国からも注目されていました。 「親子支援プログラム」は、こうして子どもたちが学校で学んだ人間関係を構築するスキル（技術）

親が子どもと接する際の、子どもの気持ちの受け止め方や子どもとの視点に立ったとするべき態度、子どものやる気に応じた言葉のかけ方など、人間関係を適切に構築する能力を高め、

PTA役員の方を中心に体験講座を実施していますが、より多くの保護者に「親子支援プログラム」を体験していただきたいと考えています。そのためには、今後も、保護者への啓

親子支援プログラムは、市PT協の懇話会をはじめ、区連の研修会や学校PTAでも実施されており、PTA役員・関係者を中心に着実に広がりを見せてくる。

A black and white illustration showing three children: a boy in the center and two girls on either side of him, all appearing to be engaged in a game or activity together.

「ーションを図ろう」という意識をなく持つことが大切です。また、日常生活の中に多くある、子どもとのコミュニケーションのきっかけをさす、タイミングよく行なうこと大切だと考えています。

「もう、お兄ちゃんなのだから
一人で寝なさい」お子さんにこ
なことを話した経験をお持ちの
がいると思います。下に兄弟が
来たり、ある年齢に達したりして

通じてますが、毎日のことですが、白親子関係、夫婦関係に大きな影響を及ぼしそうです。それが、子のもの将来を決定づける大きな要となるとしたら、たかが寝方で済まされませんね。

家庭教育力って何だろ？

教育関係者の間で「家庭や地域での教育力」が低下してきたとの指摘されるようになって久しい。しかし実際に「家庭（地域）教育力」をはつきりと定義し、またそれ向上させることは簡単ではないそこで、PTA研究大会（

新しい取り組みも始まっています

地域との連携を大切にしています！ ～三橋小学校と地域との交流～

三橋小学校（大宮区）は、児童数約1,200名と県内指折りのマンモス校。PTA行事を行えば大勢の参加者が集まるのも、マンモス校ならではの利点かもしれない。同校のもう一つの特徴は、校舎と三橋公民館が棟続きになっていること。毎年11月上旬に開催される、PTA主催のフェスタは、公民館祭りも同日開催され、保護者も子どもも地域の人たちと一緒にになって「行ったり来たり」と忙しい。

「三橋コミュニティ」という、子どもたちの健全育成を目的とする地域団体とPTAとの交流が始まったのは数年前。地元ライオンズクラブも協力して実施される、6月の「じゃがいも収穫祭」と12月の「三橋発見探検隊」は人気行事となった。今年度（12/12）の探検隊は、焼き芋を楽しみながら、「三橋」の地名発祥の橋を探索するという企画で、約70名の親子が参加した。

新1年生の保護者を対象とした、交通安全指導員による春の「立哨指導講習会」は、子どもたちの登校時の安全のため、旗振りの方法を指南いただくPTA主催の事業として定着。通学区域が広く、区域内の人口が2万人を超える同校PTAでは、「子どもたちの安心・安全を確保するためにも、学校や地域と三位一体になってコミュニケーションづくりを進めたい」と話している。



探検隊の締めは大根掘り

共同事業で広がる横のつながり ～大谷場中学校区の4校連携～

大谷場中学校区（南区）では、中学校を中心に近隣の小学校3校と学期ごとに「4校連絡協議会」を実施している。開催は、毎年持ち回りで担当し、各校のPTA会長、副会長、校長、教頭が参加している。主な議題は、各校の近況、抱えている問題、共同事業の打ち合わせ等となっている。

特に、共同事業に関しては、「4校がひとつになって何かをしよう」と始まつたもので、これまで「4校あいさつの日の制定」、「共同防犯パトロール」を実施。各校のPTA役員が一緒になって取り組んできた。

今年度は、「さらに進んだ事業を」ということで「防災マップ作り」を実施した。3校の小学校からほとんどの児童が大谷場中学校に進学するため、小学校は中学校の様子が、中学校は小学校の様子がわかるという利点があり、とても有意義なものとなっている。

PTAの活動は内部に閉じている場合が多く、中学校に進学して初めて顔を合せる保護者も多い。「PTA役員から横のつながりを広げていくことが大切だ」と、4校の共同事業は続いている。

PTA活動を円滑に進めるためにはコミュニケーションが欠かせない。毎日のように子どもたちに関するトラブルや事件がマスコミで取り上げられており、「安全・安心の確保」という点からも、その重要性はますます大きくなっている。

今、緊急時の新たなコミュニケーション手段として、PTAで注目を集める「一斉メール配信システム」。PTAのコミュニケーションづくりのために、「地域との連携」、「小・中学校PTAの連携」という視点で、新しい展開を模索する活動と合わせて紹介しよう。



最後まで流れますか？ 電話連絡網！
～進む一斉メール配信システムの導入～



急な変更、地域内の不審者情報といった、確実に知りたい情報をいち早く知ることができます。
二十年春からこのシステムを導入した栄和小学校（桜区）では、学校近くで発生した不審者は、学校近くで発生した不審者情報を伝達する必要が生じた際、保護者があらかじめ登録した携帯やパソコンのアドレスに、学校からの連絡を受けることができる。外出先の保護者でも瞬時に情報を確認することができます。登下校時刻や天候不順時の運動会の開催など学校行事の

スムーズに流れているだろうか？
近年、昼間保護者が仕事などで自宅にいないケースが増え、連絡網が流れにくくなっている地域も多いようだ。こうした実情を踏まえ、緊急連絡用にメール配信システムを導入した学校が、市内の公立小・中学校百六十二校のうち、現在二十二校ある。（導入検討校は十七校、昨

年十一月現在）
このシステムは、学校が緊急に情報を伝達する必要が生じた際、保護者があらかじめ登録した携帯やパソコンのアドレスに、学校からの連絡を受けることができる。外出先の保護者でも瞬時に情報を確認することができます。登下校時刻や天候不順時の運動会の開催など学校行事の

導入した栄和小学校（桜区）では、学校近くで発生した不審者は、学校近くで発生した不審者情報を伝達する必要が生じた際、保護者があらかじめ登録した携帯やパソコンのアドレスに、学校からの連絡を受けることができる。外出先の保護者でも瞬時に情報を確認することができます。登下校時刻や天候不順時の運動会の開催など学校行事の

導入までは各校様々な努力があるようだ。まず、PTA会員がこのシステムを理解し、導入に賛同するかどうかから始まり、学校との協議、利用会社の検討。そして、財源の捻出方法や運営管理者の決定、会員への徹底や個人情報の取り扱いなど、いくつかの課題をクリアしての導入となる。

導入後も、未加入家庭への緊急時の連絡体制や事前登録できなかつたPTA会員への対応など、落ち着くまでに時間がかかるケースも見受けられる。一方で、すでに利用した保護者からは、このシステムがあつて助かっていると高い評価を得ているのも事実だ。

「子どもの安全を確保するため、PTAとして今できる最善な方法はなにか？」を考えたときに、メール配信システムは、家庭と学校を結ぶ新しいコミュニケーション手段として注目されている。

（本紙特集取材班）

面参照）でも取り上げられたこの問題について、改めてコミュニケーションの観点から取り上げてみた。一読してただいて、家庭や地域での「教育力」が向上するヒントになれば幸いである。

よりよいPTA活動を目指して！

さいたま市PTA協議会（市PT協）が誕生して9年。本年も子どもたちの安心・安全の教育環境充実のため、様々な活動に積極的に取り組んできました。今回はその中から、各区PTAの代表が参加した催しや研修会等についてご紹介します。参加者が限られているため、日頃なかなか皆様にお伝えすることができない内容ですが、この機会にご報告させていただき、よりよいPTA活動の一助となれば幸いです。

市P協主催事業

- ①懇話会…教育委員会が行っている様々な施策や実践を聞いたり、体験をしています。
 - ②教育委員会との交流会…子どもたちの教育環境の更なる充実を目指して、活発な意見交換をしています。
 - ③錦岩少年自然の家の視察研修…子どもたちと同じ体験をしながら、側溝清掃など施設の環境整備に汗を流しています

この他にも、日本PTA全国研究大会、指定都市PTA情報交換会、日本PTA関東ブロック研究大会等に代表が参加していますので、参加者の報告をご覧ください。

実現を支援するPTA活動
私たちが愛してやまない
子どもたちのために、今、
家庭は、地域は、学校は何
をすべきなのか、子どもた
ちとどう向き合えばいいの
か。

全国より約八千人が集い、
考え、気づき、感じた二日
間であった。

二日目の全体会では、式
典が行われ、大会宣言・決
議が採択された。引き続き、
川島隆太氏（医学博士・東
北大学教授）による「脳科
学から見た『早寝・早起き・
朝ごはんの大切さ』」と題し
た記念講演が行われた。

「脳に関する最新の知識
にショックを受けるだろう」
始まつた講演は、笑いあり、
きあり、うなずきありで、一
も聞きもらさずという姿勢の

⑧2、
第57回
「向き合おう！まつすぐ」

IT社会の進展や少子高齢化家族化の進行など、社会が大きく変化した背景で、地域社会の教育力、若年層社会性が低下しているとのことがある。

今回のメインテーマは①自ら学び実践するPTA活動

②家庭・学校・地域社会が協働し子どもを育むPTA活動

③子どもの安全・安心な教育環境を整えるPTA活動

④食の大切さを考え基本的生活習慣を実践するPTA活動

⑤環境を大切にし人を愛する心豊かな子どもを育むPTA活動

⑥子ども一人ひとりの自己

「朝おかず」で学力アップ!

8月21日
▼
22日
第五十七回日本PTA全国研究大会 みやぎ大会
「向き合おう! まっすぐに 話り合おう! 子どもの未来のために」

第十一回
PTA情報交換会
福岡大会

市P協が取り組む様々な活動を市内全てのPTA会員の方に詳しくお伝えするため、広報紙やホームページで、隨時報告していく。PTA活動が、より「楽しめる」記事をどんどん配信していくので、是非ご覧いただきたい。また、各区PTA代表者からの参加報告などもお聞きいただき、今後の活動に活かしてもらえることを期待している。

（富士山発）子どもたちのみらいへ
（育もう人への思いやりと
自然に対するやさしさを）

一日目はPTA組織運営や家庭教育等八つの分科会に別れて発表会が開かれ、二日目はアルビニスト野口健氏による環境問題をテーマとした記念講演等が行われた。

さいたま市を代表して発表を行った植竹小学校前PTA会長の浅川氏は、「学習支援ボランティア」の活動を涙ながらに報告し、会場を深い感動に包んだ

10月16日(土)
17日(日) 第四十一回日本PTA
関東ブロック研究大会
山梨大会

昨年までの研究大会から情報交換会に改められた今大会は、家庭・地域の教育力向上をめざしたP.T.A活動の在り方をテーマに、一日目は四つの分科会が開かれ、二日目は全体会と記念講演が行なわれた。さいたま市P.T.A協議会から四名の役員が参加し、福岡市・横浜市など歴史のある協議会から経験と実績を聞くことができて大変参考になつたとの感想があつた。今後の活動に活かしていきたい。

詳しくは本一覧ページ

きいた東西P.T.A.

搜索

さいたま市内の国立・市立小中高・養護学校へ通っている児童・生徒の皆さんの事故を24時間幅広く補償します！

さいたま市PTA協議会
「児童・生徒ワイド補償制度」加入受付中!

(团体伤害综合保障)

補償制度の特長

1. 一般加入と比べて37%割引のお得な保険料
 2. 学校管理下・管理外を問わず「24時間補償」
 3. 傷害補償は、入院・通院とも「1日目から補償」
 4. さらに入院は「1000日まで補償」
 5. 加入児童・生徒の扶養者に万一のことがあった場合の「育英費用補償」
 6. 加入児童・生徒がストーカー犯罪やひき逃げ事故に遭われた場合の

「被害事故補償」

当制度のお問い合わせ・パンフレット請求先

当制度のお問い合わせ・パンフレット

「東京DTA協議会」

いたま市PTA協議会| 先

代理店：(有)池田保険事務所

總代理店：(有)池田保險事務所
總經理：池田義一

36-0932 さいたま市緑区中尾1424 TEL 048(375)3133 FAX 048(312)1533

〔お問い合わせ先〕 TEL:048(875)9133 FAX:048(810)1502

更多資訊請上網查詢：www.104.com.tw 或撥打服務電話：104-1100-1000

引受保険会社(株)損害保険ジャパン(幹事会社)

株式会社あいだま支店